



健康・友愛・奉仕

発行
米原市伊吹老ク連
編集
米原市伊吹老ク連
広報委員会
米原市伊吹老ク連事務局
TEL (0749) 58-1634

人生100年時代をめざして!!



伊吹老ク連 副会長 上津 和雄

甲辰きのえたつの元旦おとそ気分の午後、能登地方を震度七の激震が走り、伊吹地区でも震度四を観測しました。

その影響で日本海側の各地において津波が発生。今尚避難生活を余儀なくされておられ、240余名の方の尊い命が奪われてしまいました。心から哀悼の気持ちで一杯であり、命の有難みを感じるにはいられません。

日頃会員の皆様には伊吹老ク連の事業に対して何かとご協力を賜り心よりお礼申し上げます。コロナ感染症も五類に移行され、予定通り事業を實踐する事が出来ましたことをご報告申し上げます。

さて今年度を振り返りますと何と云っても話題は大谷翔平選手ではないでしょうか。W・B・Cで日本が優勝した事、その時の名言「あこがれるのは、やめましょう」やホームラン王、MVPに選ばれた事、×にはドジャースとの歴史的な契約には日米だけでなく世界に日本人の偉大さを広められたのではないのでしょうか。

さて、伊吹地区の人口は約五千人で、その内六五歳以上

の高齢化率は33%で他の地区よりも高齢化が進んでおり、しかも老人クラブ会員五百二十四名中約一割の方が一人暮らしで頑張っておられ、このような実状から益々お互いに助け合う絆が必要であると感じております。

人生一〇〇年時代を楽しく過ごす秘策について今期の研修会を通じての情報を基に振り返って見ますと、先ず、認知症予防対策についてケアセン

ターいぶきの白井先生の講話では認知症と加齢によるもの忘れの違いの説明があり御飯を食べて記憶がない。注意力、実行機能、言語障害等については社会的認知症と言われ、

買い物を忘れた等は治療可能な認知症、レビート体型認知症等の説明がありました。二〇二二年には65歳以上の七人に一人が二〇二五年には五人に一人が発症する病気だと言われております。

次に県老人クラブ大会での大道芸人たつきゆうさんの講演では、ユーモアセラピー笑いと健康、笑いの体操を通じて、笑いは人から人へ伝染する。↓自分が明るい周囲も明るくなる。↓人と人との繋

がりも旨くできる。↓自分の心の幸せにしてくれる。というサイクルが出来る。長生きの秘策は運動、栄養、交流が大事で、毒蝮三太夫の名言①今日用事(教養)がある。②今日行く(教育)とこころがあるを引用され、どこかに出かけて活動すると身体活動が増す。交流が増える。その都度おしゃべりやおめかしをして見る事が大事であるとの事でした。

今年某テレビ局で一〇〇歳の方を紹介された中で現在も水泳教室に通っておられる男性は「今年の目標は一〇〇歳での25m自由形と背泳で日本新記録を達成する事」と話され、水泳教室の楽しみは「若い人と話し合う」事が元気を保つ秘訣だと話されておりました。

以上の事から人生はストレスを持たず、笑って暮らして適度な運動と交流で頂上まで到達を願っております。

「能登半島地震」災害支援に、ご協力頂きました募金は令和6年3月7日現在12万4753円です。

令和四年度 伊吹老ク連 活動報告



研修部会 部会長

伊夫伎 博夫

令和五年五月八日から新型コロナウイルス感染症は五類感染症に位置付けられました。その後も一定数の感染者が見受けられたことから、年間の各種行事は昨年同様に参加人数制限を設けるなどの対策を続けながら、各単クのご理解とご協力のお陰で全て開催することが出来ました。

伊吹老ク連本部役員も欠員状態で、研修部会担当の「寿ふれあい広場」を単位クラブ役員の方々に準備や受付のお手伝いを頂くことで十一月三十日午後伊吹薬草の里文化センターのジョイホールで開催することができました。一部単クの脱退や解散などで連合会参加の地区単ク数は七団体となり、昨年並の参加者数が確保できるかとの心配もありましたが、当日は多数の参加をいただくことができました。



鳴田 伊吹老ク連会長

開会にあたり伊吹老ク連鳴田会長が多数の参加とともに、活動へのご理解とご協力に礼を述べ、今後とも引き続きご協力・ご支援をお願いされました。

来賓としては昨年度に続き、米原市社会福祉協議会の日比会長に祝辞を頂き、開会行事を終えました。

そのあと、交通安全教室として米原警察署の講師により「高齢者の事故の傾向と注意点」・「高齢者講習による認知

機能テストについて」の講演があり、交通事故が起きる具休例や注意すべき内容を話していただき、参加いただいた皆さんへの交通安全に対する注意喚起となったものと思います。

続いて講演となり、老ク連の『健康・友愛・奉仕』というテーマのもと、鈴鹿隆之氏(京都市左京区 鈴鹿内科病院 院長)により「医学知識を音楽にのせて」と題して、ご自身が日ごろから音楽作曲や演奏を趣味として、各種施設での音楽と医学講演をされていることを紹介され、この日もピアノの他にシンセサイザーやアコーディオン演奏を交えての講演をされ、写真の

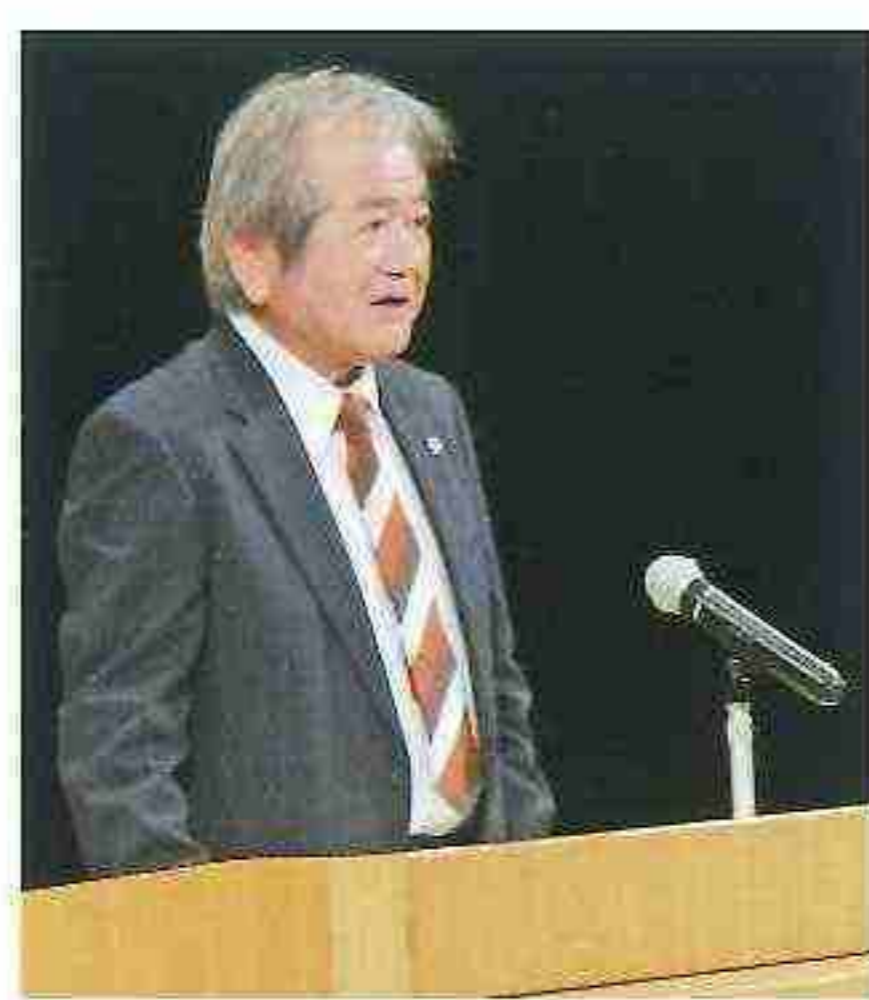
ように会場の参加者席にも降りていってアコーディオン演奏をしながら場内を廻られたりしていただき、皆が良く知っている歌を鈴鹿氏の伴奏で歌うなど、会場の皆さんには和やかで楽しい時間を過ごしていただき、予定していた九十分もあつという間に過ぎていきました。

楽しんでいただいた講演会のあとは、恒例の「お楽しみ抽選会」となり、上津副会長がステージ上で抽選券を引き、

順番に当選者を読み上げて多数の方に景品を貰っていただき閉会となりました。

今回も、会場の中に間隔を空けて座って頂けるように配慮したつもりでしたが、昨年同様に皆さんは会場後部にグループで固まって座っておられたのが気になるものでした。しかし皆さんに楽しい時間を過ごして頂くことが主題でしたので、ご協力頂いた単位クラブの役員さんや参加頂いた皆さんのお陰で無事に終えることが出来たことに感謝申し上げます。

社協の日比会長様の祝辞を紹介させて頂きます。



日比 米原市社協会長

本日は、「令和五年度寿ふれあい広場」が盛大に開催されますこと、誠にめでたうございます。

伊吹老人クラブ連合会の皆様には、日頃から米原市社協の活動に格別のご理解・ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

ます。

また、近江と共に力強く老ク連の活動を続けていただいております。鳴田会長様始め事務局の皆さん、会員の皆さんに改めて感謝申し上げます。

さて、これは昨年の統計ですが、80歳以上の高齢者は全国で1,200万人、実に人口の10.1%、およそ10人に一人が80歳以上となっています。推計では2040年、今から17年後ですが、2,570万人増の3,500万人になり、総人口の34.8%、10人に3.5人が80歳以上になると言われています。

そんな高齢社会にあつて、私の父の世代、今から4、50年くらい前は、高齢になつたら、またサラリーマンなら定年退職後は、悠々自適に年金暮らしという方が多かつたと思います。昨年の調査では、65歳～69歳では50.8%、70歳～74歳でも33.5%の人が仕事に就いておられるようです。

元気で、家にいるより仕事に行つた方が良いという方は良いと思いますが、そうでない方は大変で、今の年金ではなかなかゆつくりさせてもらうことはできません。

また、地域においても、高齢化に加えて担い手も不足

世代交代も思うように進まず、毎日ご苦労いただいていることと思います。

特にコロナ以降は地域の行事も少なくなり、活気や人の繋がりが少なくなってきたようにも思います。

ようやく5月に新型コロナウイルス感染症の扱いがインフルエンザと同じになりましたが、コロナの影響で我慢の生活をしてきた間に、暮らしの中の大切なこと、つまり地域住民同士が繋がることの大切さを、少し見失ったのではないかな、という気がしています。

言うまでもなく、この「繋がりに」というのは、地域で暮らしていく上で非常に大切なことなのですが、コロナの経済対策などと違い、国や県・市などからの支援はなく、皆さんが自らの力で乗り越えなければならぬ大きな課題です。

そんな中で、さらに追い打ちをかけるように、各地域の各種団体が十分な活動ができなくなり、会員の脱退や新規加入者がいないという中で、解散の危機や既に解散してしまった、という話を耳にします。

こうした地域の各種団体は、人を繋ぎ、地域貢献を柱としたコミュニケーションの大きな役割を担うものです。

地域に人はいるけど入会する人がいない、入会しても顔を出さない、役員を引き受ける人もいない、地域の団体ではありませんが、PTAも解散してしまっただという市内の中学校もあります。

一体この先、人の繋がりはどうなって、その先はどうなるのかと心配です。

こうした危機感から、4月に開催しました合同説明会で、市内の各自治会長さんや福祉担当の役員さん民生委員さんに、団体への支援や育成をお願いしたところですが、是非とも、色々な団体が再び活気を取り戻し、地域の結びつきが戻りますよう、皆様方にも是非ともお力添えをお願いいたします。

今、多くの自治会が行事への参加者が、特に若い世代が少ないという悩みを抱えておられます。少し前までは、一杯呑みの会でも若者が沢山参加してくれましたが、今はそれすらなかなかできなくなってきました。私達の世代は、酒の席で年上の人と仲良くな

り、職場でも呑み会で上司と話しをするのが楽しみでしたが、今の若い人は誘うと「それは義務ですか」「それは職務命令ですか」とか聞かれたりすることもあって、こちらはそんなつもりはないので「もうえーわ」となって次に進めない、なかなかむずかしい世の中になってきました。

12年前の東日本大震災では、東北地方を中心に2万2千人を超える多くの方が亡くなったり行方不明になったりされました。

この時、全国からすぐにボランティアが駆けつけ、一日も早い復興を願いながら一生懸命に作業しておられました。覚えておられる方も多いと思いますが、その時の国民的合言葉が、人の繋がりに「絆」でした。

その年の流行語大賞にもなった言葉ですが、あの言葉に込めた国民の思いは、今どうなったのかな、と思うことがあります。また、コロナ禍で冠婚葬祭のほとんどがごく身内で済ませるようになり、何かあったとき、特に冠婚葬祭は地域の親戚や隣家の世話がないと執り行えなかったことで、地縁・血縁などの関係を

大切してきましたが、今やこうした繋がりも必要ないのかと思う人も多いのではないのでしょうか。今は元気で「そんなことは自分や家族だけでできるから、人の助けは無用」という人も、いつも家族がそばにいてくれるとは限りませんし、突然の災害や事故などで生活が一変することや、今まで順調だったのに一つのつまづきから孤独感を持つようになったり、「自分や家族だけではどうにもならない」という状況は、誰もがそうなる可能性があると肝に命じておいていただきたいと思えます。これから益々高齢化が進むだろうと思われま

すが、皆さんの地域がこれまでに以上に強い絆で結ばれますよう、私も米原市社協も皆さんと一緒に汗を流して参る所存です。結びになりますけど、どうぞ「ここで暮らし続けたい」と思えるような町を、お子さんやお孫さんの世代に引き継いでいただきませうようお願い申しあげ、「寿ふれあい広場」開催に当たっての御祝いの言葉とさせていただきます。



医学知識を音楽にのせて 鈴鹿隆之先生の講演



交通安全教室 交通安全の心得



保体部会 部会長

石河 勝美

日増しに春の陽気が感じられる今日この頃となつてまいりました。会員の皆様にはご健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。

平素は、保体部の活動にご理解とご協力を頂き厚くお礼を申し上げます。お陰をもちまして保体部の事業も無事終えることができ、改めて会員の皆様に感謝を申し上げます。ところでございます。

今年にはコロナ禍もようやく治まり雪の心配も無く穏やかな年明けと思っておりましたが、突然の能登半島地震や羽田空港での航空機事故など波乱の幕開けとなりました。この地震や事故でお亡くなりになられた方には、心からご冥福をお祈り申し上げます。ともに、一日も早い被災地の復興を願うばかりです。

令和5年度も残すところわずかとなってまいりました。保体部におきましては、この一年スポーツを通じて会員皆

様の親睦と健康づくりを図り、これからの高齢化社会を楽しく元気に過ごせるよう取り組みを進めてまいりました。

六月には米原市高齢者スポーツ大会の予選も兼ねて、「初夏スポーツ大会」を県立伊吹グラウンドで開催し、各単ク対抗でグラウンドゴルフ、輪投げの2種目を半日楽しく競技していただきました。

九月には長浜バイオ大学ドームにおいて、「第32回米原市老ク連高齢者スポーツ大会」を近江老ク連と共同で開催しました。当日は、朝早くから役員をはじめ保体部員やグラウンドゴルフ連盟の方の協力で会場準備を行い、半日ではありましたが楽しく競技交流をいただき無事大会を終えることができました。

十一月には「秋季グラウンドゴルフ大会」を伊吹第一グラウンドで開催し、日頃の練習成果を発揮し秋空のもと楽しんでいただきました。

二月には「ゲートボール大会」をスパーク伊吹で開催し、寒い時期ではありましたが楽しく競技、交流いただきました。

三月には「スマイルボーリング大会」を伊吹山麓総合体育館で行い、午後の半日を楽しんでいただきました。

保体部におきましては、今後とも会員皆様の健康づくりに向けて取り組んでいきたいと思っております。

各単クの会長様にはこの一年各大会の参加者の取りまとめから会場準備、後片付けと大変お世話になりました。感謝を申し上げます。させていただきます。



初夏複合スポーツ大会

令和5年6月14日(水) 県立伊吹運動場(OSP)

参加チーム数 グラウンドゴルフ 10チーム(オープン参加3チーム)
公式ワナゲ 男子6チーム 女子6チーム
参加者 105名

種目	順位	優勝	準優勝	三位	敢闘賞
グラウンドゴルフ 打数		伊吹B 231	村木 232	高番 235	杉澤ハッスル 236
	男子	伊吹B 743	伊吹A 388	高番A 371	大久保B 295
公式ワナゲ 得点	女子	大久保 459	伊吹A 453	伊吹 345	藤川B 283

※グラウンドゴルフ(4番25球)ホールインワン (敬称略)
柴榮 正和

※ペタンクは、会場の都合などにより実施しませんでした





ワナゲは降雨が心配されたので管理棟の軒下で行いました



秋季グラウンドゴルフ大会

令和5年11月9日 伊吹第1グラウンド

参加者 67名(敬称略)

順位	男性の部 38名						女性の部 29名					
	単ク名	氏名	1R+2R 計			スコア	単ク名	氏名	1R+2R 計			スコア
			実打	1打	2打				実打	1打	2打	
1	村木	三原 敏行	58	2	10	52	伊吹	伊富貴栄津子	59	1	11	56
2	村木	山田 耕市	58	1	14	55	伊吹	井吹 和子	63	1	14	60
3	高番	藤田 佐知夫	58	1	12	55	伊吹	堀川 みず江	65	1	9	62
4	高番	大森 國昭	60	1	10	57	春照	鈴木 富美栄	66	1	8	63
5	伊吹	川崎 善正	63	1	14	60	大久保	柏 喜美子	70	2	5	64
6	藤川	藤居 一男	60	0	14	60	伊吹	伊富貴節子	67	1	7	64

優先順位 スコア→1打の回数→2打の回数→年齢
 注意 ホールインワンは、1回につき3点を実打より引く

ホールインワン賞 4番ホール (25m) 順不同敬称略
 伊富貴鉄雄 中西 則之 山田 哲代



グラウンドゴルフ入賞者の皆さん



米原市老人クラブ連合会 第32回高齢者スポーツ大会 種目別結果

令和5年 9月27日
長浜バイオ大学ドーム

選手役員(参加者) 伊吹老ク連 87名 近江老ク連 113名 計200名

種目	順位	1位	2位	3位	4位	5位
グラウンドゴルフ(8)		高番	伊吹	宇賀野B	村木	宇賀野A
成績		330	331	340	349	353
ペタンク男子(8)		世継	能登瀬	長沢	多和田	杉澤
成績		3勝+15	3勝+6	2勝+3	2勝-1	1勝-6
ペタンク女子(8)		村木	伊吹	長沢	多和田	高溝
成績		3勝+10	2勝+14	2勝+7	2勝+6	1勝-1
ワナゲ男子(8)		世継	伊吹A	大久保	高番	母の郷
成績		684	472	443	420	408
ワナゲ女子(8)		多和田	寺倉	舟崎	大久保	藤川
成績		441	395	379	368	342

※各老ク連より各種目に4チーム出場

優先順位

グラウンドゴルフ 打数の少ないチーム、打数が同じ場合は、1打の打数の多いチーム、更に、同数の場合は2打の打数の多いチームを上位とする。

ペタンク 1、勝数 2、得失点差 3、得点率(総得点÷(総得点+総失点))

ワナゲ 合計得点の多いチーム、合計得点が同点の場合は、1つの試合の高得点順とする。



今中議長



平尾市長

来賓祝辞



岡崎より平和を

求めての戦い

福祉部会 部会長 伊藤 一司

大河ドラマ「どうする、家

康」のテーマ館と大樹寺、八

丁味噌への訪問であった。

戦国時代に生きる信長、秀

吉、家康にとって、力の弱い

一城主、一大名にとっては、

まさに生き残りをかけての

日々であっただろう。

一五四二年(天文十一年)

家康が岡崎城での誕生から六

歳までと、今川から戻った十

年間岡崎で在城した記録であ

る。

公園内には産湯に使った井

戸、へその緒を埋めた塚、遺

書を刻んだ石碑、カラクリ時

計など家康ゆかりの史跡を見

物した。

「白兔」と呼ばれた信長を

恐れながらも真面目に行動し

た後も「姉川の合戦」におい

ては浅井に対する働きは目を

見張るものがあつた。

話は大樹寺にもどうそう…

先代からの菩提寺としての

つながりは数多くの話がある。

今川義元の敗死は家康に

とって大ショックであった。

大樹寺で切腹しようとした

とき、住職の上人から「厭離穢

土・欣求浄土」けがれた世の中

をいとい、平和な国を求めよ、

と授けられた生を思い、死を

思いとどまったと伝えられ

る。彼はその言葉を生涯、座

右の銘にしたとされる。その

寺には松平家歴代の墓、徳川

十四代までの等身大の位牌な

ど貴重な品が祀られている。

城から3km一直線に伸びる

ピスタラインは本堂・山門・

総門へとつながります。

「長寿こそ勝ち残りの源」

と健康と食にこだわった彼が

食していた味噌「八丁味噌」

は、大豆と三河湾の塩で保存

食として優れ兵士の兵糧とし

ても重宝されていた。

城から西へ八丁(八百七十

m)味噌は二年以上の間、熟

成されるとの事、水分が少な

く深い味わいになった。

NHKで流れる「どうする

家康」には戦国時代の権力者



時計台が30分間隔で家康公の能を舞うからくり人形に変わる

達が人の生命を簡単にうばい、命令に対する実力誇示にはひどく目を覆いたくなるものがある。

戦いとは人々の生命のやりとり、全ての破壊を意味する。今、地球上で、ウクライナ・ガザの地で行われている戦争がいつ終わるのか、権力者の欲は数万人の人命を奪っていく、それは全ての欲に破滅で無駄な事なのだ気づくのはいつだろう。

戦いのない平和な世をつくらうとした家康の願いは今にも通じる思いがします。

そして、今起こっている戦争も人種的な違い、宗教的・地理的な条件が関わっている。

石田三成と家康が見るシーンでは、お互い見ている星が違ったと語り合う。

戦いの無い平和な世界は、いつ来るのか……

私からの健康ワンヒント

カラスガイが起るるのは水分が不足している証し、寝る前にコップ二杯の水を用意して一気に飲まずに数度に分け口内衛生と血液増加につとめましょう。



松平家・徳川家菩提寺
徳川家康公開演の寺
大樹寺参拝記念
令和5年7月12日
岡崎観光写真協会



大樹寺の門から岡崎城が見えます



家康の最強の武将 本多忠勝像



岡崎城

女性代表・友愛担当者研修会

八月二十三日にジョイいぶき視聴覚室で開催しました。研修会はこれから益々増加することが予測されている認知症について「認知症予防」をテーマに地域包括ケアセンターいぶきの白井恒仁先生より講演をして頂きました。脳の疾患等や栄養障害、ビタミンB12欠乏等によって発症するリスクがあるとの事でした。その予防には、定期的な運動（散歩・早歩き）・人との交流・社会参加・余暇活動（特に頭を使う様な活動、読書、パズル、楽器の演奏、囲碁等のボードゲーム）等により予防効果が高まるとの事でした。また、予防とは、「認知症にならない」という意味ではなく、「認知症になるのを遅らせる」「認知症になって進行を緩やかにする」とのお話でした。その他に生協さんからのフレイル（虚弱）防止のポイントのお話やバランスのとれた食材を使っの健康レシピの紹介や記憶力テストなども行って頂きました。また、京滋ヤクルト販売（株）さんが「健康は腸から」をテーマに講話をして頂きました。

単クダより



老人会入会に際し

春照老人クラブ

会長 大野 龍天

家族は生活を営む場でありながら葛藤に満ちている場であるかも知れません。親子・夫婦・兄弟・親戚、家族は様々な人間関係で構成されているからこそ、安心を提供する場になる事もあれば、解決しがたい困難な問題が生じる場にもなり得るのです。今回「老人会」への入会問題について一寸考えてみましょう。

私は僧侶でありますので、亡くなられた時には「法名」をつけさせて頂きますが、もう一つ「戒名」というのがありますが、この違いを考えてみる時、これは先ずどちらも故人に対して付けられる名前のこと。しかし、ここで押さえておかなければならない事は「法名」や「戒名」は新たに佛教徒になり佛弟子として歩み始める際に授かる名前であること。そこで、「戒名」は「戒律」から授かった者の名前という事、古来から佛教教団では佛弟子として歩み始める際に佛道修行において守るべき規範で戒律を授かり実践す

ることを誓う、そしてその戒律を受けたことを表す名として、「戒名」と呼ばれるようになったこと。

一方、浄土真宗で使われる「法名」は佛・法・僧に帰依することを誓い、佛弟子として歩み出す際に授けられる名前です。そこには生まれや職業地位能力業績等関係なく、あらゆる一切の者を佛とならしめたいという「阿弥陀佛」の願いに生きる名前であること。

この様な事を考える時、「老人」とは何か、今は、「後期高齢とか少子高齢」とかの言葉を使って人間存在を明らかにしているように感じています。自然の中に「命の尊厳」を問う時この「老人会」組織はお互いが語り合い尊う気持ちと繋がりの中に生き「忙しい」「忘れる」は同じ意味ですが人間生活の中には違う様で「はからい」が用くところにある様でその気分を持ったまま気軽に老人会に入会してお互いに学び合ひましょう。春照老人会発展にご協力下さい。

一年を振り返り組織運営に思うこと



伊吹親和会

会長 膽吹 邦一

伊吹親和会に入会してまもない三年前に副会長に就任させて頂いた頃からコロナウイルス感染症が蔓延し活動が低迷しましたが、コロナの位置付けがインフルエンザと同等になり、そこで日常活動を取り戻すべく、今年度から、積極的に伊吹老ク連の事業に参加し、また、本会の単独事業を皆様のご支援とご協力を頂き展開する事ができました。

伊吹老ク連では、加盟団体の退会が相次いでいますが、当会では、65歳から入会をして頂いており、伝統的に年齢に達した方に勧誘し、ほとんどの方が入会され、若手会員が役員を担って頂いております。勧誘活動では、組織に危機感を持ちながら、当会の活動の意義や、コミュニティの尊重を確認しながら継続されてきましたし、今後もこの伝統を受け継いでいく必要性を感じています。

事組合法人ブレスファーム伊吹」の運営の主体は前期高齢者の当会のメンバーが担われています。少子化、核家族化の中で、いずれの組織も高齢化の波は避けられませんし、必然的なものです。こんな時代だからこそ、多様性を尊重し、現リーダーが次を担うリーダーにバトンタッチできるように最大限努力することにより、新たな担い手の人材を掘り起こすことにつながり、各分野の好循環が促され、持続可能な魅力的な活動が期待できるのだと思います。

人生一〇〇年時代と言われるて久しいですが、周りにも年を重ねて活躍されておられる方々がたくさんおられる中、私も自宅で地域の活性化の一躍を担えればと思立ち、「伊吹在来そばの専門店」を昨年四月から始めさせていただきました。集落の中ですので、いろんな方との交流を楽しみながら、これからの人生を生き抜いて行きたいと思ひます。

改めて、新しいシニア組織の活動継続での、地域社会の連帯を強く望みながら筆を置きます。

伊吹老ク連の広報誌「年輪104号」は、令和五年度も各字老人クラブ会員各位の活動協力を得ながら、次期への組織存続を期待して無事に発刊が出来、有終の美を飾ることが出来ました。

編集後記

伊吹老人クラブ連合会が創設されてから既に60年余り、日本は著しい社会発展を成し遂げる一方で、少子高齢化による人口減少を生み、人口の都市集中で地方社会は疲弊、伊吹地域でも同様に各集落は高齢化と過疎化で、これまでの慣習や活動が停滞し廃止や存続の危機を迎えており、伊吹老ク連の組織活動に於いても、例外では無く維持存続の危機に直面しています。

これまで時代を超えて活動され御尽力を頂いて来た多くの歴代の老ク連常任役員ならびに各字単クの会長と会員の皆さんに、深甚の敬意と感謝を申し上げます。

伊吹老ク連の広報誌「年輪104号」は、令和五年度も各字老人クラブ会員各位の活動協力を得ながら、次期への組織存続を期待して無事に発刊が出来、有終の美を飾ることが出来ました。

改めて、新しいシニア組織の活動継続での、地域社会の連帯を強く望みながら筆を置きます。

広報編集委員 嶋田正昭